

# 北区拠点商業活性化推進事業計画 第2期



～ “住みたくなるまち” の商店街を目指して ～

平成 29 年 3 月

新潟市北区

－ 目 次 －

1	計画の概要	
	(1) 計画策定の趣旨	・・・ 2
	(2) 計画期間	・・・ 2
2	北区の現状	
	(1) 北区の概要	・・・ 3
	(2) 北区が目指すこれからのまちづくり	・・・ 3
	(3) 商業地の概況	・・・ 4
	(4) 各種統計にみる北区商店街を取り巻く状況	・・・ 5
	(5) 前計画の成果検証を経た提案	・・・ 8
	(6) 商業地の活性化に向けた課題	・・・ 8
3	拠点商業地の位置及び区域	
	(1) 拠点商業地の設定	・・・ 9
	(2) 地区設定の考え方	・・・ 9
4	拠点商業地の活性化に向けた基本方針	・・・ 12
5	拠点商業地の活性化の目標	
	(1) 拠点商業地活性化の課題	・・・ 14
	(2) 拠点商業地活性化に向けた目標の設定	・・・ 14
6	実施事業の内容とスケジュール	・・・ 16
7	計画の着実な実施による商業活性化の推進	・・・ 18
	北区拠点商業地活性化推進委員会 委員名簿	・・・ 19

## 1 計画の概要

### (1) 計画策定の趣旨

この計画は、本市総合計画「にいがた未来ビジョン」におけるまちづくりの方針である「新潟らしいコンパクトなまちづくり」を商業分野から推進していくため、区内で拠点性を有すると認められる地域の活性化を進め、特色を活かしたまちなかの実現を図ることを目的に策定しました。

第1期計画（以下、「前計画」という）は平成23年度から平成28年度までの6年計画で実施し、最終年度に成果検証を行いました。その結果、基本方針に沿って計画を実施し一定の成果は達成しましたが、目標に掲げた全ての事項の目標は達成することはできませんでした。今後も北区が目指すまちづくりの将来像を実現するためには、さらなる拠点化を進めて商業の活性化を推進していく必要があります。

このたび、前計画の検証結果及びまちづくりの方針を踏まえて第2期計画（以下、「本計画」という）を策定しました。

### (2) 計画期間

平成29年度から平成33年度までの5年間とします。



## 2 北区の現状

### (1) 北区の概要

北区は、新潟市の北東部に位置し、東は聖籠町・新発田市、南は阿賀野市に隣接しています。西は阿賀野川、北は日本海が広がっています。北区の面積は107.72 km<sup>2</sup>(平成25年10月1日現在)で、新潟市8区の中では西蒲区に次いで2番目の面積となり、全市域の約14.9%を占めています。南部には田園地帯が広がっていて、福島潟や阿賀野川など水辺空間を中心とした豊かな自然環境に恵まれた区域です。

北区では米を中心に野菜、果樹、花き、畜産など、多種多様な農畜産物の生産や漁業が行われ、中でもトマトとなすは、県下一の出荷量を誇っています。また、区内には多くの工業団地があり、製造業や物流関連企業が集積しています。

特に、新潟東港は、本州日本海側で最大のコンテナ貨物取扱量を誇る物流拠点として、その取扱量は順調に伸びています。国道7号(新新バイパス)や高速道路などの交通網も整備されていることから、産業立地には優位な環境にあります。

北区の人口は75,896人(住民基本台帳/平成28年10月31日現在)で、新潟市の8区の中で5番目の人口規模です。

### (2) 北区が目指すこれからのまちづくり

本市は、平成27年度からのまちづくりについて示す「にいがた未来ビジョン」に基づき様々な事業を実施しています。

北区では、区が目指すべき方向を定めたまちづくり計画「北区区ビジョン・まちづくり計画」を策定し、区の実情に沿った事業展開を進めています。

北区が目指すまちづくりを商業分野から推進していくため、本計画によって、地域の魅力を活かした商業の振興を図り、活力あるまちを目指します。

#### 北区区ビジョン・まちづくり計画

自然・活力・安らぎにあふれるまち ー住みたくなるまち 北区ー

豊かな自然と共生するまち

都市機能が充実したまち

活力ある産業のまち

学びあい、健康で、人にやさしいまち

安心安全で暮らしやすいまち

### (3) 商業地の概況

前計画では、拠点商業地として、区の基本方針に対応し地域間の連携体制及び協調した取り組みが可能であり、かつ地域の拠点性があると認められる区域を選定しました。

北区においては、豊栄駅前通りを中心としたエリアと、松浜の本町商店街を含むエリアの2地区を指定しました。両地域には古くから、それぞれ商業区域が形成されており、さらに地域の商工業を支える豊栄商工会と（協）北新潟商工振興会が商店街の振興・発展に向けて様々な事業を行っています。

そして、それぞれの商業区域において共通していることは、地域住民の生活に密接に関連する商業集積地であること、医療機関や金融機関などが点在しているほか、区バスや公共交通機関が整備されており、地域の生活利便性が非常に高いことが挙げられます。よって、本計画でも前計画区域を拠点地域として継承します。



(4) 各種統計にみる北区商店街を取り巻く状況

北区の商店街の現状を統計から見ると、小売業の事業所数（商店数）、及び年間商品販売額等も減少していますが、市全域においても北区と同様に、小売業の事業所数・従業員数、年間商品販売額・売場面積において減少しています。

※次の表は平成14年、16年、19年、26年の商業統計資料です。新潟市は広域合併市町村のデータを集計したもので、北区については、現在の北区の範囲で集計したデータとなっています。なお、増加率は平成26年と19年の比較です。

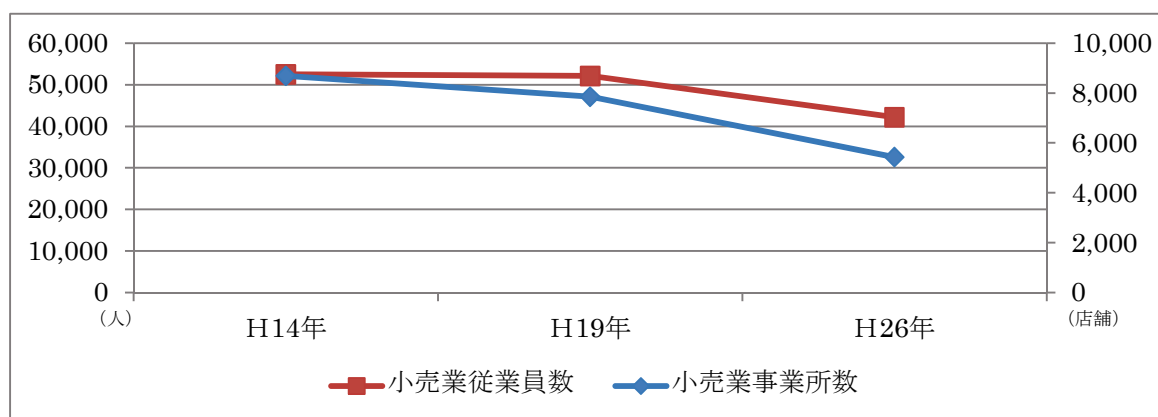
●小売業事業所数（店舗）

	14年	16年	19年	26年	増加率
新潟市	8,691	8,333	7,854	5,434	▲30.8
北区	642		574	398	▲30.6

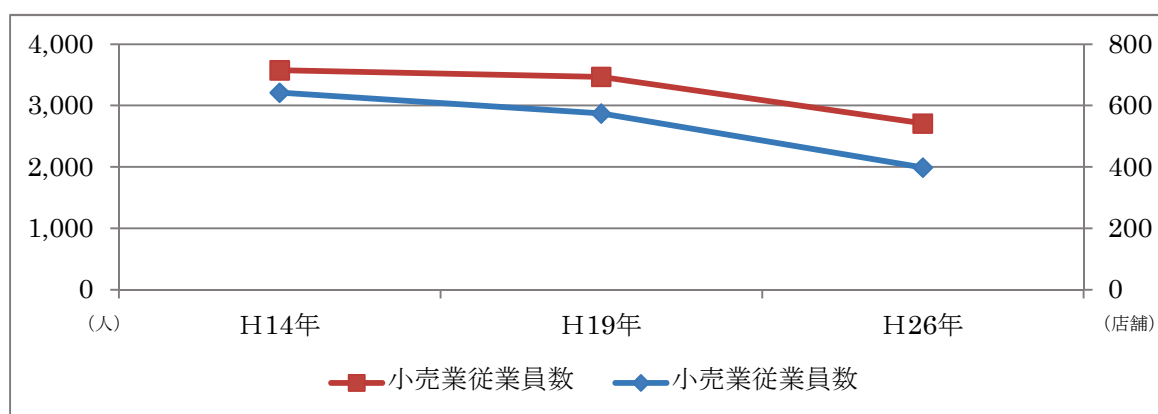
●従業者数（人）

	14年	16年	19年	26年	増加率
新潟市	52,490	53,236	52,095	42,173	▲19.0
北区	3,575		3,468	2,708	▲21.9

《新潟市》



《北区》



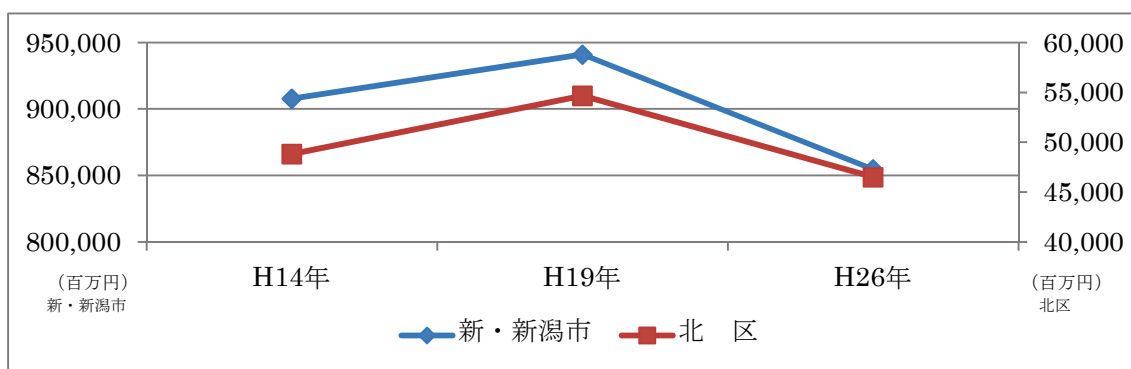
●年間商品販売額（百万円）

	14年	16年	19年	26年	増加率
新潟市	907,842	916,253	940,963	854,656	▲9.2
北区	48,827		54,669	46,508	▲14.9

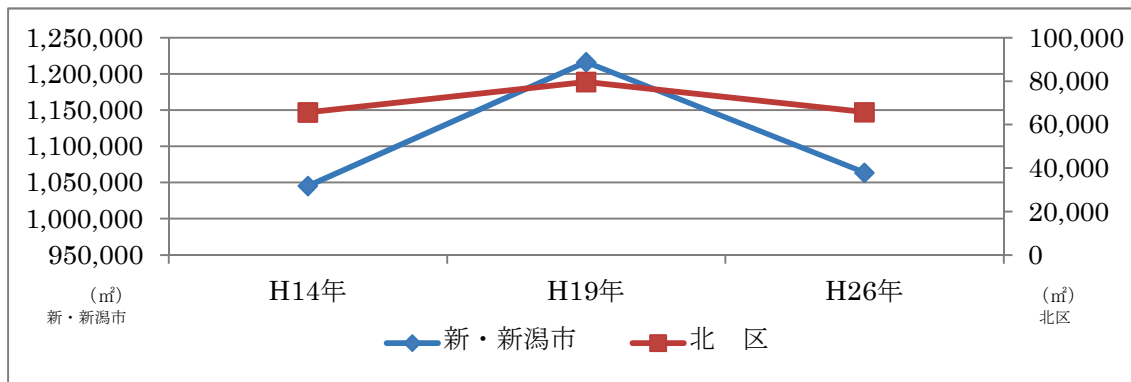
●売場面積（㎡）

	14年	16年	19年	26年	増加率
新潟市	1,045,456	1,158,066	1,216,226	1,063,675	▲12.5
北区	65,639		79,640	65,763	▲17.4

《年間商品販売数》



《売場面積》



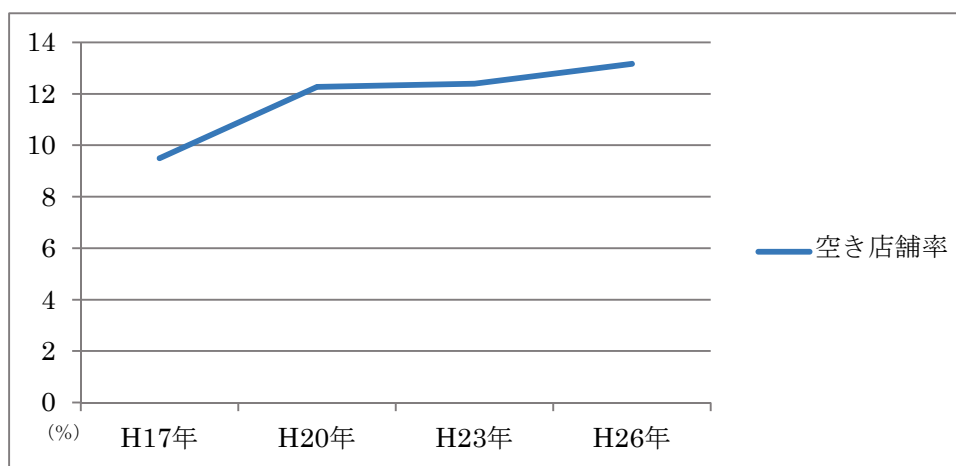
事業所数（商店数）の減少は、商店街の空き店舗率の増加という形でも現れています。平成 17 年度から平成 26 年度までの新潟県商店街実態調査によると、商店街の空き店舗率の平均は下記のとおりです。平成 20 年度から微増となっており、商店街における空き店舗はほぼ横ばい状態となっています。

	平成 17 年度	平成 20 年度	平成 23 年度	平成 26 年度
空き店舗率	9.49%	12.27%	12.39%	13.16%

※空き店舗率は「商店街ごとの空き店舗率」を単純平均[空き店舗数 / (営業店舗数 + 空き店舗数)]で算出

《空き店舗率：新潟県内》

(新潟県商店街実態調査より)





#### (5) 前計画の成果検証を経た提案

前計画では、まちづくりの基本方針、及び成果指標を目標として様々な事業が取り組まれてきました。平成28年度の最終年度にあたり、北区拠点商業地活性化推進委員会において計画に対する評価と本計画に対してのご意見をいただき、検証を実施し報告書を作成しました。成果検証では拠点商業地活性化に向けた今後の方向性として下記提案を受けました。

- ①既存固定客への誘客施策の継続
- ②新規来街者獲得への新たな取り組み
- ③まちなかにおける拠点確立に向けての事業提案

本計画においては、上記提案を踏まえ、活性化に向けた実施事業を策定しました。(参照 P16・P17)

#### (6) 商業地の活性化に向けた課題

高齢化に伴う既存客の減少や人口減少に伴う購買層の減少など、商業地を取り巻く環境の変化に対応すべく、環境の整備や店主の意識改革が求められています。また、商店街以外の店を利用する住民が、その店舗を利用する最も大きな理由として、チラシ等による商店の積極的な宣伝を上げているのに対し、商店街においては広告宣伝が効果的にできていないため、商店街の各店舗の魅力が伝わっていない可能性があります。したがって、既存の商店街利用客を確保するサービスを維持しつつ、新たな利用客確保に向けた様々な施策を展開する必要があります。

これからの商店街の新たな顧客となりうる若い世代を誘客するために、商店街の情報を得ることができて滞留を可能とする、まちなかの新たな拠点が商店街には必要です。

### 3 拠点商業地の位置及び区域

#### (1) 拠点商業地の設定

北区における拠点商業地は、基本方針に対応し、地域間の連携体制及び協調した取り組みが可能であり、地域の拠点性がある前計画の商業地を継続することとしました。

地域	範囲
豊栄駅前地区	白新町1丁目(一部)、白新町2丁目(一部)、白新町3丁目(一部)、白新町4丁目(一部) 葛塚(一部)
松浜地区	松浜本町1丁目(一部)、松浜本町2丁目(一部)、松浜本町3丁目(一部)、松浜本町4丁目(一部)、松浜2丁目(一部) 松浜7丁目(一部)

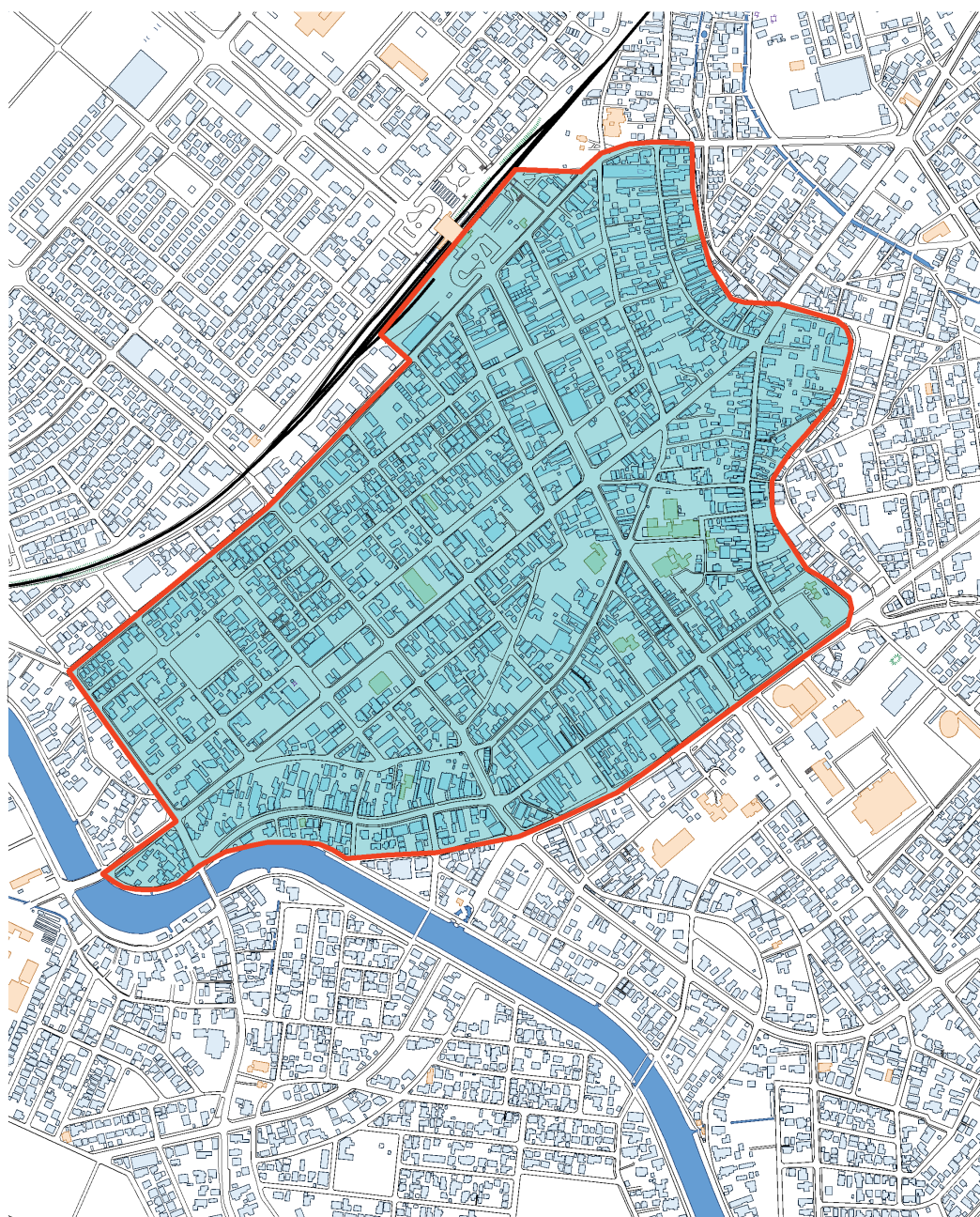
#### (2) 地区設定の考え方

両地区ともに定期市が開催され、伝統的な祭りなどの文化をそれぞれの商店街が支えていることなどの共通の土壌もあり、各種活性化に向けた取り組みを一体的に連携して実施しています。これらの取り組みも含め、前計画から継続して拠点として指定することにより、両商店街の活性化を断続的に図ることができ、商業分野から区全体の活性化を推進します。



現計画における拠点商業地は以下のとおりです。

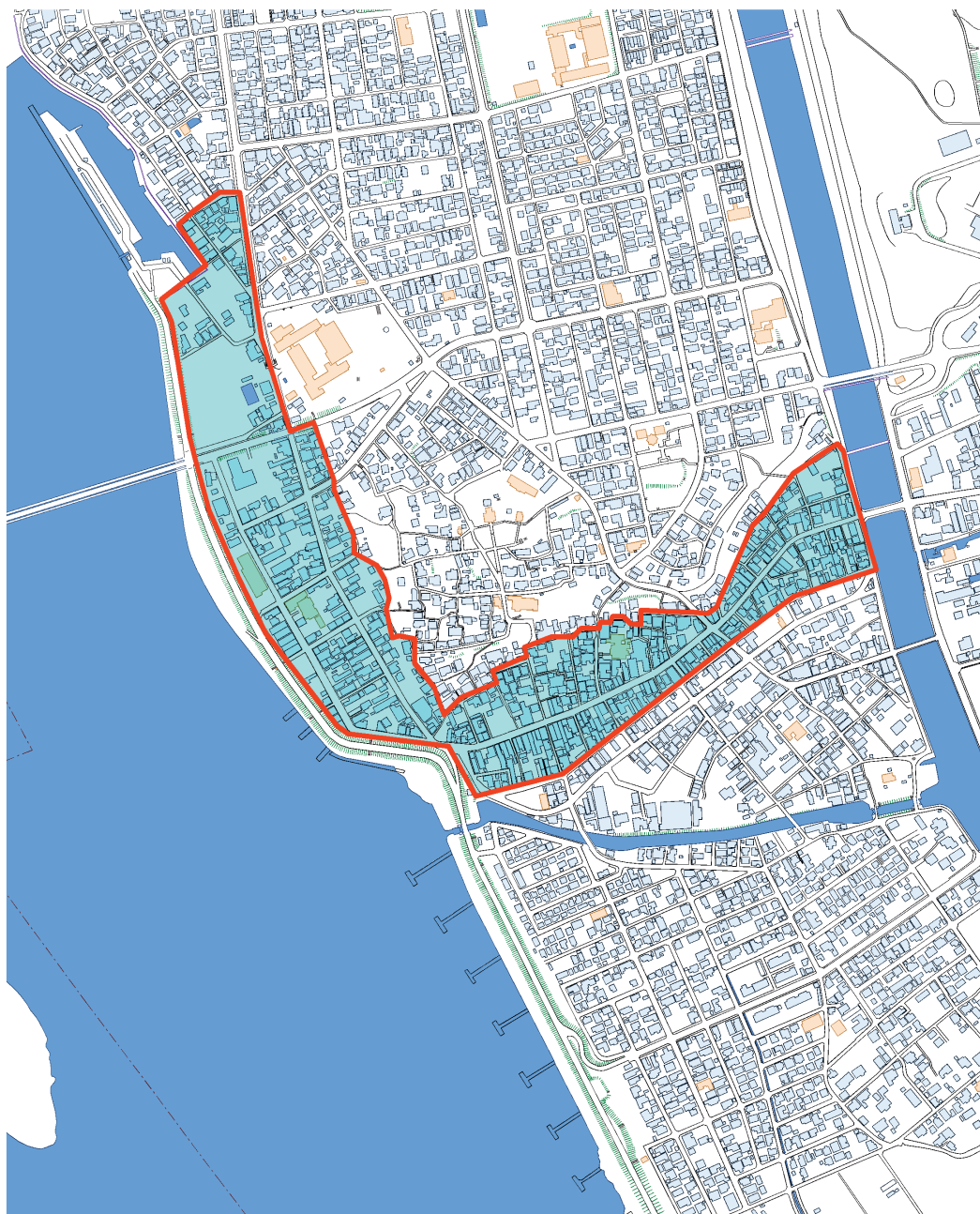
## 豊栄駅前地区 拠点地域



豊栄駅前地区は、商店街組織と都市計画の商業地域・近隣商業地域です。



## 松浜地区 拠点地域



松浜地区は、松浜本町通商店街と定期市を内包する都市計画上の近隣商業地域です。

#### 4 拠点商業地の活性化に向けた基本方針

移りゆく消費者ニーズを商店街自身がしっかりと把握し、かつニーズに応えるべく様々な事業を実施し、魅力あるまちづくりを実現します。

地域住民と協働する商店街を目指し、商店街における既存固定客へのサービスを継続して実施します。

また、既存固定客の減少に対処すべく、新規来街者を増やし商店街の魅力をPRし新たな顧客となってもらおうよう、様々な取り組みを実施することも必要となります。

加えて、継続的な地域住民と協働した賑わいづくりをすることにより、商店街を発展させるべく、学生や若者をまちなかに滞在させる拠点確立に向けての事業提案もおこないます。

以上の内容を実現するため、基本方針は、前計画の方針を引き継ぎます。

##### 【基本方針】

##### ①ときめく商店街

商店街の魅力をPRするとともに、必要性について商店主・消費者ともに帰属意識を深めることができるようにします。

##### ②親しまれる商店街

消費者が忘れかけている「まち」の良さや、商店街店主の「人情」などを再認識し、商店街における各商店巡りが楽しくなるようにします。

##### ③気配りのある商店街

買い物困難者をはじめ全ての消費者が安心して生活ができるようサービスの向上を図ります。

##### ④学びのある商店街

学生や子育て世代を含む若い世代を新たな消費者と位置付けて、新たなつながりを作り商店街の活性化を図ります。また、北区拠点商業地活性化推進委員会において提唱された事業【空き店舗の再生に向けた拠点整備の提言】を、各商店街等が実施検討するために、本計画に参考事例として記載します。

空き店舗の再生に向けた拠点整備の提言

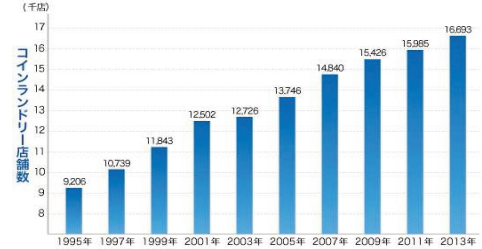
**Photographer Café Laundry**

—コインランドリーを核とした地域の拠点—



□郊外の空き店舗に増加するランドリー

コインランドリーはかつて、学生・単身者を対象とした『狭い・暗い・汚い』場所のイメージがありましたが、今やロードサイドの郊外型ショップが主力で、一般家庭の主婦をターゲットとしたニュービジネスとして急速に拡大しています。



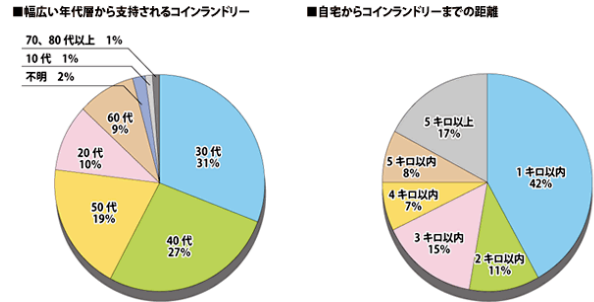
□なぜコインランドリーなのか？

● 土地活用や資産運用にも最適！

立地環境の影響が少ないビジネスであるため、固定資産税がかかる遊休地を少ない初期投資で最大限に活用できます。

● 単身者・働く女性・共働きの増加で需要増！

天候に左右されず、布団などの大物やまとめ洗いができ、家事労働の軽減、コミュニティスペースの提供と地域に大きく貢献できます。



● 生活に密着したサービスゆえ投資効率が低い！

コインランドリーはセルフサービスなので、人件費がほとんどかかりません。大量の商品仕入や在庫もなく、洗濯をしている間の時間も有効利用できる投資効率の良いビジネスです。

□罹災時に避難拠点となるコインランドリー

熊本地震直後、貯水タンクがあり断水後もいち早く水が使えたことで、洗濯ができない人のために深夜 12 時までの営業時間を 24 時間営業に変え、駐車場は車中泊の人のために無料開放し、駐車場で温かい炊き出しが行われました。



□待ち時間で地域活性化「フォトグラファー・カフェランドリー」

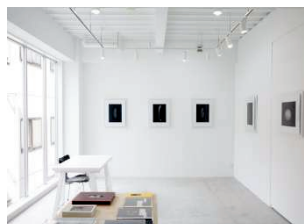
写真を通じて市民が地域情報を発信し、以下の4つの機能が郷土愛を育む場をつくれます。



カフェ：繋がる場



スタジオ：創る場



ギャラリー：見せる場



ランドリー：生活の場

## 5 拠点商業活性化の目標

### (1) 拠点商業地活性化の課題

前計画の成果検証において、本計画への提案を受けました。商店街を対象とした事業実施だけではなく、各個店の魅力アップも重要です。

本計画で基本方針を目指していくための課題は以下のとおりです。

#### ①ときめく商店街

課題：商店主、消費者ともに「まち」の必要性を再認識する。

#### ②親しまれる商店街

課題：商店街における「商店巡り」をしやすくする。

#### ③気配りのある商店街

課題：買い物弱者でも安心して買い物ができる。

#### ④学びのある商店街

課題：これからの地域を担う若い世代の消費者とのつながりをつくる。

### (2) 拠点商業地活性化にむけた目標の設定

#### ①懐かしく新鮮な私たちのまち

成果指標

- ・商店街の利用頻度として

週1回程度利用する消費者36%を40%にする。

- ・商店街のお店の信頼性満足度として

現在、良い・まあまあ良いと感じている消費者45.1%を50%にする。

#### ②歩いていて楽しいまち

成果指標

- ・商店街のお店の接客態度満足度として

現在、良い・まあまあ良いと感じている消費者42.5%を45%にする。

- ・商店街のお店のサービス満足度として

現在、良い・まあまあ良いと感じている消費者30.7%を35%にする。

- ・商店街のお店の利便性満足度として

現在、良い・まあまあ良いと感じている消費者39.9%を45%にする。

#### ③みんなにやさしいまち

成果指標

- ・商店街のお店のバリアフリー対策やディスプレイの工夫の満足度として

現在、良い・まあまあ良いと感じている消費者22.2%を25%にする。

- ・商店街のお店の広告等の宣伝満足度として

現在、やや悪い・悪いと感じている消費者7.8%を5%にする。

④若い人が集うまち

成果指標

- ・若い人の商店街の利用頻度として  
現在、月に1度以上利用している10～20代の人29.3%を35%にする。
- ・若い人の商店街のイベント参加として  
現在、毎回行く、たまに行く10～20代の人19.5%を25%にする。



## 6 実施事業の内容とスケジュール

### ①ときめく商店街

事業名	取組内容	実施主体	実施時期	予定支援制度
テントバザール「葛天」	歩行者天国	豊栄駅前通商店街振興組合	平成29年度～	ステップアップ事業（にぎわい創出）
下町天国	歩行者天国	豊栄下町商店街振興会	平成29年度～	ステップアップ事業（にぎわい創出）
白新町「秋の陣」	歩行者天国	白新町商工振興会	平成29年度～	ステップアップ事業（にぎわい創出）
青空バザール	歩行者天国	松浜本町商店街	平成29年度～	ステップアップ事業（にぎわい創出）

### ②親しまれる商店街

事業名	取組内容	実施主体	実施時期	予定支援制度
イルミネーション点灯式	駅前のロータリーをイルミネーションで飾りつける。	豊栄商工会	平成29年度～	ステップアップ事業（にぎわい創出）
おもてなしクーポン	加盟店舗で使えるクーポン券を発行する。	北区商店連合会	平成29年度～	拠点商業地にぎわい創出事業（広域集客）

③気配りのある商店街

事業名	取組内容	実施主体	実施時期	予定支援制度
防犯カメラ設置事業	防犯カメラの設置	上町商店会	平成29年度～	環境整備事業 (共同施設関係)
LED灯街路灯等維持管理事業	LED灯街路灯等の維持管理	豊栄駅前通商店街振興組合 白新町商工振興会 松浜本町商店街	平成29年度～	LED灯街路灯等維持管理事業

④学びのある商店街

事業名	取組内容	実施主体	実施時期	予定支援制度
テントバザール「葛天」 (再掲)	歩行者天国	豊栄駅前通商店街振興組合	平成29年度～	ステップアップ事業(にぎわい創出)
下町天国 (再掲)	歩行者天国	豊栄下町商店街振興会	平成29年度～	ステップアップ事業(にぎわい創出)
白新町「秋の陣」 (再掲)	歩行者天国	白新町商工振興会	平成29年度～	ステップアップ事業(にぎわい創出)
青空バザール (再掲)	歩行者天国	松浜本町商店街	平成29年度～	ステップアップ事業(にぎわい創出)

## 7 計画の着実な実施による商業活性化の推進

本計画を着実に進め、実効性あるものにしていくためには、北区、商業者、商業団体、関係団体等、各団体がそれぞれ役割を果たしつつ、連携・協働していくことが重要であり、実施していくうえでは支援体制も必要です。

また、計画事業の実施状況の点検・評価を行い、そのうえで、商業活性化に係る問題、事業を巡る状況や社会的動向などを加味しながら見直しを行い、新たな課題等に対応していかなければなりません。

本計画推進のために計画の進行管理を行い、必要に応じ関係機関等と連携を図りながら北区の商業活性化を目指します。

北区拠点商業地活性化推進委員会 委員名簿

	分野	氏名	備考
1	学識経験者	関谷 浩史	新潟県立大学 国際地域学部国際地域学科 准教授
2	経済関係者	吉田 大介	豊栄商工会（白新堂）
3		村山 雅孝	北新潟商工振興会（やおちょう）
4	地域 コミュニティ	松田 正實	地域コミュニティ葛塚連合 会長
5		小林 信太郎	松浜地区コミュニティ協議会 副会長 （ハマ不動産）

平成 29 年 3 月

新潟市北区役所 産業振興課